

ナムブドゥリパッドのアレルギー除去療法 (NAET) でピーナッツアレルギーが軽減した 1 例

ロイ・ナムブドゥリパッド医師 (アメリカ)

要約

ナムブドゥリパッドのアレルギー除去療法 (NAET) を用いて、ピーナッツアレルギー患者の IgE 値が低下し臨床的反応性が軽減した 1 例の報告を呈示する。患者は、病歴と IgE 値にみられたように、経口負荷試験にて乾燥焼きピーナッツ片の摂取でアナフィラキシーの徴候を示した。およそ 18 か月にわたる NAET 施術計画を完了したあと、これらの症状は消退した。さらに 2 種の異なるイムノアッセイ法 (カリフォルニア州ガーデングローブ・ハイコアバイオメディカル社のハイ * テック (HY * TEC) 酵素イムノアッセイと、スウェーデンのウプサラ・ファディア社のイムノキャップ (ImmunoCAP) 法) で測定した IgE 値も減少した。ピーナッツ濃縮液 (5% w/v (重量 / 容量) 抽出液、北カリフォルニア、ルノワールのグリーンラボラトリー社製) を用い、3 時間以上かけて 1 グラムまでのピーナッツ蛋白摂取をする経口負荷試験を再度行なったが、患者は何の反応も示さなかった。この報告は、NAET を用いて食物アレルギーの脱感作を成功させる可能性へのさらなる追求を支持するものである。

導入

ピーナッツアレルギーやアナフィラキシーの頻度は近年増加しており、アナフィラキシーや死亡のリスクをはらむことから、とりわけ小児において注意喚起や研究がなされている。一般的に、免疫グロブリン E (IgE) を介するピーナッツアレルギーの状態は生涯にわたって継続し、現在のところ治療の選択肢は限られたものしかない。皮膚のプリックテスト、血清 IgE 値、そして患者の病歴が、アレルギーと診断するための典型的なデータであり、経口負荷試験で診断が確実になる。

ナムブドゥリパッドのアレルギー除去療法 (NAET) は 1983 年に開発された、既存の枠にとらわれない食物アレルギー療法で、伝統中国医学の視点に、栄養学とカイロプラクティック原理を融合したものだ。鍼灸のツボを押圧刺激するだけの非侵襲的の手法である。

NAET では、伝統中国医学の Hua To Jiaji ポイントへしっかりと迅速に圧を加える、という施術を患者は受ける。それは脊柱に沿って上から下まで脊柱両側の筋肉部を降りていくポイントで、肋間神経への刺激となる。それから患者は仰臥位で、体前面にある伝統中国医学のツボ、大腸経 4 (合谷穴)・大腸経 11 (曲池穴)・肝経 3 (太衝穴) に、標準的な鍼療法もしくは押圧を施される。場合によりそれ以外に、脾経や心経のポイントを用いることもある。すべての手順が、ホメオパシー用に作られたアレルギー (ピーナッツなど) のバイル (小びん) を患者が手に持った状態で行われる。

同様に、アナフィラキシーに悩む患者には、ガラスびんに密封された食物の実物サンプルを持つての施術も行われる。しかしながら重症アレルギー病歴がある患者は、ガラスびんに入った食物の実物サンプルでの施術段階に進む前に、ホメオパシーバイルを用いた基本的な施術過程を経る必要がある。

鍼単独での治療がアレルギー状態に対してたいへん有効であることを示す研究はあるが、NAET はまだ十分研究されていない。それでも、アレルギー状態を施術する NAET の有効性について、アレルギーから引き起こされた自閉症と診断された 60 人の被験者によるランダム化比較試験の調査がすでにある。その結果、施術群の 77% が 1 年間の NAET 施術計画完了ののち普通学級に加わることができ、他方比較対照群では同じ期間中に 1 人も改善しなかった。アレルギー症状も調査したところ、施術群では対照群と比べてめざましい自覚症状の改善をみせた。(Teitelbaum J, Nambudripad DS, Tyson Y, et al. Improving communication skills in children with allergy-related autism using Nambudripad's Allergy Elimination Techniques: A pilot study. Integrative Medicine (IMCJ). 2011;10(5):36-43)

この研究に加え、ピーナッツアナフィラキシーの被験者 6 人の無比較小規模試験では、血清 IgE 値の明白な変化はみられなかったにもかかわらず、患者の 67% は NAET でアレルギー症状が著しく軽減した。NAET の施術を受けた被験者たちは、ピーナッツにさらされても血清トリプターゼの値が変化しなかった。通常はひどいアレルギー反応で血清トリプターゼは上昇する。(Vincent B, Bonzo D. Biomedical analyses of a holistic peanut allergy treatment: NAET. Proceedings of the National Conference on Undergraduate Research (NCUR). Mar 31-Apr 2, 2011; Ithaca College, New York.)

あと 1 つ出版されている報告では、小児の食物アレルギーによる湿疹が NAET を受けた後に消えた例がある。

(Terwee CB. Successful treatment of food allergy with Nambudripad's Allergy Elimination Techniques(NAET) in a 3 year-old: a case report. Cases J. 2008;1(1):166)

このように NAET はまだあまり研究されておらず、一般に受け入れられるには至っていない。とはいえ鍼の作用機序の研究

は文献上よくなされており、標準的医療者集団の中でも受け入れられている。

本研究は、ピーナッツアレルギーと証明された患者のアナフィラキシー症状がNAET施術後に軽減し、血清IgE値の低下も得られた最初の症例である。NAET 施術開始時と施術後の経口負荷試験の結果も、この知見を支持している。

現病歴

私たちのクリニックに来た 19 歳の女性が、たび重なるピーナッツ暴露による症状として、舌の腫れ・気管支いれん・触れた部位の紅斑や浮腫を訴えた。こうしたできごとが起きるたび、彼女はジフェンヒドラミン 50mg の飲み薬でしのいでいた。修学前、ピーナッツバターを塗ったセロリを口にしてただちにじんま疹が出た時が彼女の問題の始まりだった。症状は年を重ねていくほどひどくなった。

臨床所見

ピーナッツに加えて患者は、くるみでも同様のアナフィラキシー反応を起こしていた。

それ以外のナッツでは、口周囲の皮膚に刺激感が出るものの、アナフィラキシーにはならなかった。その他既往歴として、エビ摂取でアナフィラキシー・小児喘息・湿疹・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎があった。

家族の病歴でも、湿疹・アレルギー・喘息が多くあった。診察では四肢や頸部に明瞭な紅斑や湿疹を認めた。2011 年 12 月 12 日に行った採血で、ピーナッツの IgE が陽性を示した (表 1)。

表 1：ハイ*テックのピーナッツ蛋白に対する血清 IgE 値 (IU/ml)

NAET 前	NAET 中	NAET 後
2011/12/30	2013/3/7	2013/11/9
28.54	13.00	11.14

表 2：イムノキャップのピーナッツ蛋白に対する血清 IgE 値 (KU/L)

NAET 前	NAET 中	NAET 後
2011/7/13	2013/3/7	2013/11/9
36.20	20.10	12.60

診断と評価

この患者は症状と IgE 検査の結果から、重症ピーナッツアレルギーと診断された。あらゆるリスクや恩恵と代替案を検討した上で、全体の反応性と検査値が低下するかどうかをみることに患者医師相互で同意し、NAET を開始した。

施術と評価

施術は 2012 年 5 月 8 日に開始され、施術中はずっとエピネフリン注射とジフェンヒドラミン内服を準備しておき、2013 年 11 月 9 日まで続けた。一連の IgE 検体は異なる 2 種のラジオイムノアッセイ、ハイ*テック (カリフォルニア州ゲーディングローブのハイコアバイオメディカル社) とイムノキャップ (スウェーデンのウプサラ、ファディア社) 用に採取された。

NAET 施術中患者は、NAET 手順に基づきホメオパシー用に作られた食物・化学物質・カビ・環境アレルゲンに関係するさまざまな液体を持つ。さらに来院を重ね、密閉したガラスびんに入れた本物のピーナッツ検体で施術をする。専門認定されているアレルギー医 (私たちのクリニックや研究班と無関係) が 2012 年 5 月 24 日に、炒って乾燥したピーナッツを用いて最初の経口負荷試験を行った。ピーナッツ半かけらを食べて、痒み・じんま疹・ピークフローの 55%低下という陽性反応を示した。およそ 45 分で試験は中止され、患者の安全を図る手順に入った。皮膚のプリックテストは、適切な対照に対して 4+ の反応という結果を示した。

NAET 施術の主要部分が完了したあと、2 人目の認定アレルギー医 (私たちのクリニックや研究班と無関係、かつ最初のアレルギー医を知らない) が、ピーナッツ濃縮液 1g までを用いて、再び経口負荷試験を施行した。皮膚のプリックテストも再度行われ、適切な対照に対して 3+ 反応という結果を示した。

2013 年 4 月 5 日の経口負荷試験 2 回目では、北カリフォルニアアルノワールのグリアラボラトリー社製ピーナッツ蛋白濃縮液 (5% w/v (重量 / 容量)) 1g までで、患者は何の反応も示さなかった。患者は、少しずつピーナッツ濃縮液の量を増やしながら、計 3 時間経過観察をされた。

経過観察と結果

ピーナッツに接したときの臨床症状が改善していることに患者は気付いており、今まで問題だった徴候や症状を示すことなく、海外旅行もできるようになった。経過中ずっと追っていた血清 IgE 値は NAET 施術後、最終的に減少していた (表 1、2)。

討論

現在のところ、ピーナッツアナフィラキシーの確立された唯一の治療といえば、避けることだが、そうした反応への助けとなる免疫療法の試みが研究者たちによってなされている。食物アレルギーの免疫療法にともなうアナフィラキシーは誰もが知るリスクとしてあり、ゆえに免疫療法の有用性は環境中のアレルゲンや接触源に限られてきた。アトピー性やアレルギー性の病気の治療においては、最小限の副作用ですむ古代中国医学を支持する文献が豊富にある。NAET はこうした鍼の学説に基づいているので、理論的には、さらなる食物アレルギー治療研究の有力候補といえるだろう。

アナフィラキシー患者の IgE 値の長期自然経過について記述した研究はあまりないが、ほとんどの文献が、ピーナッツの IgE 値は長期間経っても減少しないと説明している。この患者の値は、18 か月間で2クラス低下した。最近の文献では血清 IgE 値から経口負荷試験の結果をかなり予測しうることが示されており、とくにピーナッツの値がイムノキャップ法で15KU/Lに達している場合は有意である (>95%)。ゆえに、患者の値が NAET 施術で 36.2 KU/L から 12.60KU/L へ、先述の 15KU/L というカットオフ値を十分下回る値に低下したことは、患者のピーナッツ経口負荷試験への反応性が消えたこととよく一致する (表2)。

加えて、IgE 検査の方法によっては異なる結果が出ることもある。この可能性を考えて患者の血液の検体は、イムノキャップとハイ*テックという2種の検査法を施行するため2つの異なる検査室に送った。異なる方法間で顕著な数値の違いがみられるのは症例のわずか 5-10% であり、それでも1つの検査法の中での値は非常に一貫して信頼性があると考えられている。

経口負荷試験は、きちんとした食物蛋白が用いられているなら、アナフィラキシーのとても良い指標になる。この報告で、経口負荷試験は当初陽性で、それから NAET 施術後に陰性になった。標準的な医学手法は、血清 IgE や皮膚ブリックテストのみならず臨床症状の病歴も見ることである。

1例の症例報告だけで NAET の有効性を評価するのは困難だが、もしも正しく十分になされたなら、この症例報告は NAET が免疫グロブリン (Ig) の値を下げ、経口負荷試験におけるピーナッツ感受性の閾値を上げることができるという見解を支持するものである。

先に行われたユタの外部研究者によるピーナッツアナフィラキシーの試験では、行われた施術回数が、アレルギー反応の症状を減らせたが、免疫グロブリン値を下げるには不十分であった可能性がある。

この患者が NAET 施術前にピーナッツアレルゲンで起こしたアナフィラキシー反応は、およそ1年間の施術のあとにはもはや明らかでなくなった。しかしながら、患者のアレルギーが自然軽快した、もしくは押圧刺激自体がアレルギーの軽減に貢献したという可能性はあり、それを探究できるのはより大規模な比較試験だけである。

より多数の被験者を3群や4群に分けた試験が、より良い形で NAET の有効性を明らかにしてくれるだろう。鍼刺激自体で十分なのかどうかを見極めるために、ホメオパシーバイルや食物サンプルの対照群も必要である。この症例における臨床症状と IgE 値の減少が示唆するのは、鍼の技術、とりわけ NAET が特定の人に対してのアナフィラキシーに有効かもしれないということだ。この報告は NAET が免疫療法や誤食の危険な影響をやわらげるために役立つかどうかを決定づけるためのさらなる研究を強く後押しする。

患者の観点から

私は高度のピーナッツアレルギーのために2年前から NAET をはじめました。施術の最初の頃は、結果がどんなものになるか全く見当が付きませんでした。はじめてみると、これは大変な道のりになるぞ、と分かりました。1年後、結果が実際に現れ始めました。そして私は悟ったのです。この道のりには辛抱が必要で、もし精神的に強くて施術がうまく行くと決然と思えるなら、結果が現れると。2年後には、NAET を受ける事に対する私の見方は変わっていました。私はこれを自分のためだけでなく、私と同じ状態にある人たちをも助けるためにしているのです、できることならピーナッツアレルギーを除去してくれるものへと通じる扉を開けたいのです。

説明と同意

患者はピーナッツアレルギーの NAET 施術についての話し合いの際、あらゆるリスクや恩恵と代替案について十分に情報を与えられた。一切のピーナッツアレルギーの施術や評価は、患者がこれらの条件を受け入れ、同意書に署名してから開始された。

翻訳 安達智江 (医師)